

# ちよつと、話

第一三三号 法然上人八百年忌

宗祖法然房源空上人は、岡山県久米郡の特別寺院誕生寺の場所で長承二年四月七日に誕生され、十五歳にして比叡山に登り爾来二十猶予年に亘り黒谷の報恩藏に籠り、善導大師の素意を悟り、阿弥陀佛の本願により称名念佛による極樂往生の道を開かれました。上人の命終は京都大谷にて建暦二年正月二十五日に極樂往生されました。世寿八十歳なり。今年二月二十七日 旧曆 一月二十五日(法然房源空上人正当八百年大遠忌を迎えるにあたり、当山では二月二十日より三月五日まで、二週間に亘り法然上人様と善の綱で結ばれ念佛三昧の法要を厳修し、萬行した善入院檀信徒一同は念仏衆生撰取不者の一文をもつて命終の時 一光三尊善光寺如来様の出迎えを受け往生極樂への導きが頂けます事確実成り。それは法然上人の存在イコール念佛往生だからです。法然上人を否定する事事態失礼を通り越し無礼な事です。念佛威力は一心専念に因つてもたらされ、發揮されるものと信じています。ですから私は時間の長短は関係なく念佛三昧に徹する事が法然上人様の教えを尊重する事であり、極樂往生の道程であると思つています。日々の生活に追われてしまふ我々であれば生活の中での念佛に集中する事に意義があるからです。法然上人程の方が何故に日に六万遍もの念佛を称えられたのか、考えて見る必要があります。発案者だからでしょうか、それとも極樂に行くには六万遍必要だからでしょうか、悩みをウツタエル者には優しく簡単に思える返事をされています。簡単にしないと広まらないので、方便として仕方なく説明されたのでしょうか。私は何れも違ふと思いません。勿論お釈迦様と同じ様に身分、貧富等で区別する事無く人間、皆平等の立場をとられました。私が思いますには、不断念佛を称える事に因つて、場所、時を選ばず、何方かが突然訪れようとも念佛の中に生活してみえる法然上人様の姿を見れば、人々は感銘を受けると共に安心して教化を受ける事が出来るからではないでしょうか。法然上人様は淨土念佛の二信仰者として念佛行を勤められたはずです。反面か。大衆は佛と接するが如く、法然上人様と会つていたに違いありません。正に生仏、法然であつたのです。八百年の大遠忌を機に私も僧侶の一人として、佛道を歩み、微力ながら教化出来る立場を護つて行く所存でございます。

二十三年三月六日

善壽界善入院油掛地藏尊